

**WordPressサイトを修正・カスタマイズする
ための最適な方法**

本セッションの目標

- WordPress にはどんな編集方法があるのか知ろう
- **やりたいことをどうやればいいのか**イメージできるようになろう
- 修正・カスタマイズできる意味を知ろう



自己紹介

- 久野 晃司（岐阜県岐阜市在住）
- フリーランス ウェブ制作者
- [オレインデザイン](#) 代表
- [WordPress コントリビューター](#)
- Snow Monkey エキスパート／
unitone
- [hook wp](#) メンバー
- 岐阜市登録市民団体 Shift 代表

CMS、そして WordPress とは

CMS とは

- Contents Management System の略
- 翻訳すると「コンテンツ管理システム」
- ウェブサイトのコンテンツを管理するシステムであると言える

WordPress とは

- 世界で最も利用されている CMS であると言える
- オープンソース・ソフトウェア
- 「パブリッシングの民主化」がミッション

まず自身の WordPress ウェブサイトの状態・環境を把握する

チェックポイント

- あなたのユーザー権限は？
- 利用している WordPress のバージョンは？
- 利用しているテーマは？
- 利用しているエディターは？コンテンツ入力方法は？

これらを把握していますか？ 🧐

あなたのユーザー権限は？

- 「外観」「プラグイン」「設定」といったメニューが確認できるかどうか
- 管理者権限以外の場合は、その理由を把握しているかどうか

利用している WordPress のバージョンは？

- ダッシュボード > 「概要」で確認
- ツール > サイトヘルス > 情報 > WordPress 内で確認
- 最新バージョンは 6.8.1（スライド作成時）

なぜバージョンを確認するの？

- バージョンによって
 - 多少 UI の違いがある
 - メニューの位置や機能に違いがある場合がある

利用しているテーマは？

- 外観＞テーマ から有効化しているテーマを確認
- ツール＞サイトヘルス＞情報＞現在のテーマ で確認

なぜテーマを確認するの？

- テーマによって更新方法が全く違う場合がある（稀に？よくある？）
- テーマ特有の機能を使っている場合がある
- オリジナルテーマの場合、全く一般的な方法が通用しない場合がある

利用しているエディターは？コンテンツ入力方法は？

- 新規投稿もしくは新規固定ページを作る画面を開いて確認する
 - ブロックエディター？クラシックエディター？
- エディターが表示されない？入力してもページに反映されない？
 - カスタムフィールド or テンプレートにハードコーディングの可能性あり

テーマによる修正方法の違い

- クラシックテーマの場合
- ブロックテーマの場合
- オリジナルテーマの場合

クラシックテーマの場合

注：標準エディターを利用しているとする

コンテンツを修正する場合

- 基本は**エディターから修正**する
- できない場合
 - カスタムフィールドが利用されている可能性
 - テンプレートに直接記述されている可能性

レイアウトを修正する場合

- 外観＞カスタマイズ内から変更できる設定を持っているか確認
- テーマ側が変更できる設定を持っていない場合
 - 子テーマなどを使ってコードを書いて解決する（詳細後述）

ブロックテーマの場合

コンテンツを修正する場合

- ブロックエディターで修正する

レイアウトを修正する場合

- 外観 > エディター でサイトエディターを立ち上げて修正する

オリジナルテーマの場合

コンテンツを修正する場合

- ブロックエディターを使えれば標準エディターで
- クラシックエディター（ビジュアル or テキスト）での編集
- カスタムフィールドが用意されている
 - この場合、各種エディターは使えないこともある

レイアウトを修正する場合

- 外観 > カスタマイズ 内で変更できるように作っていることは稀
 - 汎用利用を考えていないとあり得ない
- テンプレートを編集する必要がある場合が多い
 - WordPress テーマ/HTML/CSS/JavaScript などの知識が必要になる場合も

エディターによる修正方法の違い

ブロックエディターの場合

- フロント側とエディター側で見た目が近しく作られていることも
- 視覚的に編集できる場合が多い
- 便利な反面、最適な形で提供するには技術力も必要に

クラシックエディター

- ビジュアルモードとテキストモードがある
- 2018年12月までの標準エディター
- Classic Editor プラグインを使うことで利用できる

どちらでもない場合

- ページビルダープラグインを利用している場合
 - Elementor、Beaver Builder、Divi など
 - ページビルダーで出来ることしか基本的にできない
- カスタムフィールドを活用している場合
 - 本来はページの**メタ情報**を追加するための仕組み
 - コンテンツを管理するために用意されているわけではない
 - テンプレートなどをカスタマイズしないと修正できない

カスタマイズしたい時の判断順序

主なカスタマイズ方法

- （CSSだけなら）追加 CSS 機能から
- 子テーマから
- プラグインから

(CSSだけなら) 追加 CSS 機能から

- クラシックテーマなら 外観 > カスタマイズ > 追加 CSS
- ブロックテーマなら 外観 > エディター > スタイルパネル > 3点メニューボタン > 追加 CSS

子テーマから

- 昔から「WordPress のカスタマイズなら**子テーマ**」みたいに言われてきた
- CSS や JavaScript のファイルを独自に用意し読み込ませられる
- 画像なども利用できる
- **テンプレート上書き機能**が強力
 - メンテナンスを怠ると親テーマのアップデートが適応されず維持されることに…

プラグインから

- **親テーマのメンテナンス性を維持できる仕組み**
- 手軽に有効化・無効化できるので管理が楽
- 子テーマを利用したカスタマイズ方法と若干お作法が違うところがある
- フックを多く持つテーマの場合、特に活用できる方法

まとめ

編集可能な範囲を把握することが大切

- 自身の WordPress ウェブサイトが可能な編集範囲を把握する
- 基本的に
 - クラシックテーマであれば**コンテンツ**は編集可能なはず
 - ブロックテーマであれば**レイアウトとコンテンツ**は編集可能
- 標準的なできることを理解して差分を特徴として把握する

「やりたいこと」と「できること」でバランスを取る

- まずやりたいことを明確にしよう
- それを実現するための方法を知ろう
- それが「できる」のか「できない」のか確認する
 - 「できる」場合はチャレンジする
 - 「できない」場合は「できる」人に依頼をする

ホームページは更新することで存在価値を最大化する

- コンテンツを更新できる WordPressは強力
- 小さなことでも随時アップデートすることが大切

